

平成30年第1回竹原市議会定例会議事日程 第4号

平成30年2月28日（水） 午前10時開議

会議に付した事件

日程第 1 一般質問

(1) 井上美津子 議員

(2) 宮原 忠行 議員

平成30年2月28日開議

(平成30年2月28日)

議席順	氏 名	出 欠
1	今 田 佳 男	出 席
2	竹 橋 和 彦	出 席
3	山 元 経 穂	出 席
4	高 重 洋 介	出 席
5	堀 越 賢 二	出 席
6	川 本 円	出 席
7	井 上 美 津 子	出 席
8	大 川 弘 雄	出 席
9	道 法 知 江	出 席
10	宮 原 忠 行	出 席
11	北 元 豊	出 席
12	宇 野 武 則	欠 席
13	松 本 進	出 席
14	脇 本 茂 紀	出 席

職務のため議場に参加した者は、下記のとおりである

議会事務局長 住 田 昭 徳

議会事務局係長 矢 口 尚 士

説明のため議場に参加した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名	出 欠
市 長	今 榮 敏 彦	出 席
副 市 長	細 羽 則 生	出 席
教 育 長	竹 下 昌 憲	出 席
総 務 部 長	平 田 康 宏	出 席
企 画 振 興 部 長	桶 本 哲 也	出 席
市 民 生 活 部 長	宮 地 憲 二	出 席
福 祉 部 長	久 重 雅 昭	出 席
建 設 部 長	有 本 圭 司	出 席
教育委員会教育次長	中 川 隆 二	出 席
公 営 企 業 部 長	平 田 康 宏	出 席

午前9時55分 開議

副議長（高重洋介君） おはようございます。

ただいまの出席議員は12名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

お手元に議事日程表第4号を配付いたしております。この日程表のとおり会議を進めます。

日程第1

副議長（高重洋介君） 日程第1，一般質問を行います。

質問順位3番，井上美津子議員の登壇を許します。

7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 議長より登壇の許可をいただきましたので、発言通告に従い、平成30年第1回竹原市議会定例会一般質問をさせていただきます。民政同志会の井上美津子でございます。

なお、質問の一部に訂正がありますので、読み上げにて訂正させていただきます。どうかよろしく願いいたします。

観光について。

2月9日より韓国の平昌で第23回オリンピック冬季大会が開催されました。各国の選手の皆さんは、今までの練習の成果を出せるよう、一分一秒、1メートルを競って頑張っていました。私も、日本人選手がメダルを多く取れるように祈りながらテレビで応援していました。

2年後には、2020年東京オリンピック・パラリンピックが東京近郊で競技が行われます。大会にあわせ多くの観光客を含めた外国人が日本を訪れようとしております。

広島県では、東京オリンピック・パラリンピック事前合宿のメキシコオリンピックチームを受け入れることになっており、近隣では、東広島市が卓球、レスリング、ゴルフ、三原市が自転車の競技の事前合宿が行われ、官民で練習や宿舍のサポートをすることになっています。訪れている選手の皆さんや関係者が、競技や観戦をするだけではなく、周りの市町との交流を期待するところです。竹原市にも訪れてもらえるように検討していくべきで、外国人誘客が本市の交流人口の増加の鍵になってくると考えます。

そこで、これから2020年東京オリンピックに向けて外国人誘客に対するお考えをお

伺いたします。

竹原の春のイベントとしてお客が増加し、定着してきたとっておりました桜まつりが、今年からなくなるとお聞きして、とても残念です。桜まつりは、多くの団体が発表や食の提供等を行い、市民や観光客が桜のもとに集い、桜に癒やされてリフレッシュされたひとときを過ごしてきたとっております。イベントや祭りが全てとは言いませんが、竹原へ訪れてみたいと思うきっかけは、やはりその時期に合ったイベントではないでしょうか。桜の時期に多くの市民や観光客が、バンブー・ジョイ・ハイランドだけではなく、竹原市内の桜の名所を散策していくスタンプラリーをするのも一つと考えます。

春の観光客誘致をどのようにお考えでしょうか、伺いたします。

旅行に行く時、インターネットの口コミやランキングで行き先を決めることがあります。インターネットのランキングで全国47都道府県観光スポットトップ5というものがあり、広島県のお薦め人気観光スポット名所の中で、第3位で竹原が入っております。また、別の広島県内のランキングでは、大久野島が18位、2月10日から雛めぐりが始まった町並み保存地区が32位などの観光スポットが上がっています。観光スポットとしてはSNSなどでアップされ、魅力が伝わって、それぞれ認知度を上げています。

市長は、就任挨拶で竹原の資源を十分生かし、竹原市の魅力として発信し、交流人口の拡大を図り、地域の活力を高めたいとおっしゃっております。このたび庁舎移転に伴い、コンパクトな公共施設ゾーンとして美術館が町並み保存地区に移転するようお聞きしております。

そこで、美術館と移転する町並み保存地区がどのように連携をとっていくおつもりなのか、町並み保存地区と連携することが今後の竹原の観光にどのように影響していくのかとお考えでしょうか、伺いたします。

また、町並み保存地区も平成24年認定の歴史的風致維持向上計画の中に入っております。歴史的風致維持向上計画との関係はどのようにお考えなのか、伺いたします。

先ほども竹原市の観光スポットのお話をいたしましたが、市内にはいろいろな観光地点が点在しております。竹原市の観光消費は、スポットの点のままではなかなか伸びていかないと思います。点ではなく、観光スポット同士を線でいかに結ぶかが重要と考えます。

例えば、大久野島などの忠海地区と美術館を含めた町並み保存地区をつなぐように、竹原市にある観光スポットを観光ルートとしていくために、どのようにお考えなのでしょう、伺いたします。

以上、壇上での質問を終わります。

副議長（高重洋介君） 順次答弁願います。

市長。

市長（今榮敏彦君） 井上議員の質問にお答えをいたします。

現在、国におきましては、明日の日本を支える観光ビジョンにおいて世界が訪れたいとなる日本を目指し、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の目標値として、訪日外国人旅行者数4,000万人を掲げて取組を行うこととしております。

また、広島県におきましても広島観光立県推進基本計画で外国人観光客の受け入れ環境の充実に重点的に取り組むとともに、国や地域ごとのニーズ等に応じた対応を行うこととしております。

本市におきましては、大久野島を中心に外国人観光客が急増したことを踏まえ、これまでに観光ホームページやガイドブック等の多言語化、無料Wi-Fiの整備を行うなど、外国人観光客の受け入れ態勢の整備に加え、市内16事業者によるウサギをモチーフにしたランチやカフェメニュー、お土産品を開発し、うさぎランチカフェめぐりのイベントなどを通じて、観光客の周遊促進や観光消費額の増加に努めてきたところであります。

また、町並み保存地区とその周辺の景観や風情を生かしたまちづくりを推進するため、町並み保存地区内の建築物の改修に対する助成、まちなみ竹工房や酒蔵の保存修理、ソフト事業として小学生を対象とした町並みの建物を修理する体験講座や町並み景観セミナーの開催など、町並みの付加価値を高める取組を実施してきたところであります。

さらに、市内の主要な観光地から離れて立地し、竹原の著名人の一人である池田勇人ゆかりのコレクションを常設展示する美術館機能の町並み保存地区への移転を計画するなど、同地区の魅力をさらに向上させることにより、本市への来訪者数の増加を図ってまいりたいと考えております。

これらの取組とあわせて、春には2月のたけはら雛めぐりを皮切りに、4月の桜まつり、5月の竹まつりが実施されており、また8月には夏まつり、秋には憧憬の路、加えて各種団体や地域住民等による町並み保存地区をはじめとした市内各地での祭り行事等とも連携し、四季を通じたイベントの開催による誘客に取り組んでいるところであります。

今後におきましても、本市の自然や歴史、文化などの強みを最大限活用する中で、各種団体や地域住民の皆様と連携しながら、年間を通じ、国内外の観光客を含む交流人口の増加に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

以上、答弁といたします。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） それでは、再質問に移りたいと思います。

答弁漏れがありますので、その都度質問させていただきたいと思います。

答弁書によりますと、今まで外国人誘客に向けて観光ホームページやガイドブックの多言語化、無料W i - F i等、それからウサギをモチーフにしたいろんな施策をされてきておられます。ですが、私が聞いたのは2020年の東京オリンピックに向けての、これからの誘客をどうするのかというところをお聞きしたと思います。

それとまた、竹原市に受け入れてもよかったのかなというふうに思っているのですが、オリンピック事前合宿というところで、ちょっともう一つ質問をしていきたいと思えます。

この事前合宿は、広島県の10市町が26種目のメキシコのチームの支援をしていくということになっておまして、また湯崎県知事も、県民の皆様と文化的な交流を深めてほしいとか、メキシコとの関係が深まることを期待するというふうに言われております。これは、県のホームページなどに載っております。近隣の市町にこのメキシコのチームが来るということで、選手とかその関係者をどのように竹原に迎えてくるのか、またそれとそその選手たちと交流をどのようにしていくのかというところをお聞きしたいと思えます。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、広島県が誘致を行いましてメキシコ選手団のキャンプを受け入れるということになったということについての御質問でございます。

広島県では、先ほど議員さんから御紹介がございましたようにメキシコ選手団の26競技、10市町で事前のキャンプを受け入れるというふうに決定されたということは承知しております。県及び県内全ての市町でこの選手団を受け入れる体制を整えるということとして、先日メキシコ選手団キャンプ受入・交流全県推進会議というのを立ち上げております。本市も、その会議のメンバーとして参加をいたしております。メンバーになっておりますので、今後また、この事前合宿といいますかキャンプにつきましては情報収集を行いながら、竹原市としてできることに取り組んでまいりたいというふうには考えております。また、今お聞きしておりますところによりますと、来年の4月から約半年間にわたって26競技中13競技のメキシコ選手団約300名が広島県にキャンプに来られるという

ふうにお聞きしております。竹原市としましても近隣の、御紹介ありましたように東広島市、三原市の方にも来られるということでございますので、先ほど市長御答弁申し上げました大久野島には、非常に多くの外国人を含めた観光客がお越しいただいておりますので、そういう世界からも注目を集めている大久野島をフックとした観光プロモーションをさらに進めていきまして、竹原の認知度というのをしっかりPRをして、竹原にも訪れていただけるような取組を今後検討してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 推進会議が立ち上がったということでもありますけども、しっかりそこで竹原も参加しているのだということを強調できるようないいものをつくっていただきたいというふうに思います。

また、来年4月から半年間という選手の受け入れというふうにお聞きしましたのですが、その中で大久野島だけではないと思うのですが、大久野島はフェリーで行かないといけないのですが、そのフェリーにも乗れないような状況になる可能性もあるわけですから、その整備も必要になってくるのではないかと思います。観光シーズンになると、私もちょっと行って見たのですが、なかなかフェリーに乗るのも大変な状況、それからその周りにある駐車場というのもいっぱいになっているような状況になっている時もありましたので、そこら辺の場所的などところも整備をしていかないとけないのではないかとこのように思います。

大久野島だけではないというふうに言いましたけども、やはり町並み、それからまだほかにもたくさんあると思いますので、そういうところもひっくるめて来ていただけるような施策といいますか事業をしていっていただきたいと思いますが、そういうところはいかがでしょうか。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 今、議員さんおっしゃられますように、確かに大久野島だけでなく、大久野島が平成28年には約37万人、また町並み保存地区にも同程度の三十数万人の観光客の方が来ておられます。市全体では120万人を超える総観光客も来られていますので、竹原市にはそのほかにもいろいろと観光スポットといいますか、すばらしいものがあるというふうに我々も認識はいたしております。そうした大久野島だけでなく竹原にはこんなもの、また食にしても特産品にしてもいいものがたくさんあるという

ふうに思っておりますので、そういったものもしっかり今後観光プロモーションを行う中で、そういう観光スポットだけではなく食あるいは特産品、お土産品、いろんなものもしっかりPRして竹原へ来ていただけるような、竹原の認知度が上がるような取組というのは是非行ってまいりたいと思っております。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 是非そのようにしていただきたいと思います。

やはりこの竹原は、空港に近いというメリットを持っております。広島空港を利用していただいているいろんなところに行ってもらい、それから帰りも空港を利用される方が多いのではないかと思います。観光客やそのオリンピック関係者というところで竹原に寄って空港に行かれる、また空港から竹原に来てもらって各地へ行ってもらいたいということも考えていかなければいけないかなと思っております。そのためには、近隣市町と、また民間との連携なども必要になってくると思います。観光客を呼んでくるプロモーションだけではなく、地域との連携ということも必要になってくるのではないかと思いますけども、そこら辺はいかがでしょうか。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 広島空港を利用したといいますか、活用した外国人の誘客という御質問と思います。

現在、RESASのデータ分析によりますと、世界遺産であります宮島ですとか広島原爆ドームへ訪れる外国人観光客のほとんどの方がやはり広島空港を利用して、広島市を拠点に移動されているというようなことがわかっております。現在、本市へ来られる外国人観光客につきましては、個人旅行客が大半でありまして、平成28年の国別の観光客でいいますと香港、中国、アメリカ、台湾、韓国というような順で、アジア圏から来られている方が非常に多いという状況でございます。

現在、広島県の空港振興課の方とも連携をいたしまして、竹原市の情報発信に御協力をいただいているというようなこともさせていただいております。今後、市長が申し上げておりますシティプロモーション、こういったことを展開する中で、先ほど議員さんからもございました竹原が広島空港に非常に近いと、また空港周辺の市町と連携して臨空都市圏でそういった地域のPRも行っておりますので、そういった様々な機会を捉えまして竹原の魅力ですとか、知名度を上げる取組を行ってきまして、広島空港を利用する外国人観光客が竹原へ来ていただけるような、そういったPRには努めてまいりたいと考えておりま

す。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 是非、その空港周辺の近隣の市町と連携をしながら、PRもしながら誘客を進めていってほしいと思います。

その中で、今アジア圏の方が多いというふうに言われましたけども、日本政府観光局が発表している統計データによりますと、2016年の訪日というところでマレーシアが訪日観光客が36万人弱、インドネシアの方からは22万人というふうなデータがあります。これは、前年に比べて両方30%以上の増加というふうに書いてありました。

インドネシアとかマレーシアはイスラム教徒が多く、イスラム教徒のことをムスリムといいます。ムスリムは食べられない食材があり、食べられる食材はハラールフードとされておりまして、もう一つ、グローバルムスリムトラベルインデックスというものがあって、これはムスリムが快適に旅行できる国を示す指数があるのですが、日本は37位というふうになっており、ムスリムの方が日本に来て、なかなか快適に旅行ができないというふうな状況になっているというふうに示してありました。

やはり細かい決まりがたくさんあるということで、なかなか食の方にも気をつけて食べないといけないというふうに思いますし、心置きなく食を堪能していただけるには、そういう対応ができる飲食店というのが必要になってくると。しかし、日本ではまだ数が少なく、また首都圏の方に集中しているというふうな状況であります。食材の専門店が広島市にも1つありますけども、なかなか近隣市町の方には対応するところが少ないということになっているようです。こういう食べるということのは、旅行にとって一番大切なところではないかなと思います。だから、いち早くこういうメニューを提供できるような、そういう飲食店を竹原市につくっていくというのも必要ではないか。

また、礼拝を1日5回行うという決まりがあって、やはりその場所が必要になってくるということになっているようです。アイフルなどにも空き店舗がたくさんありますので、それを活用して礼拝を行う場所をひとつ提供できるのではないかとというふうに考えます。観光客誘致については、いろんな市町が行っている施策がたくさんあるのですが、ムスリム対応の誘客が竹原も有効になってくるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 外国人観光客の受け入れ環境といたしますか、そういったこ

とに関する御質問というふうに思います。

そういった外国人観光客の受け入れ環境につきましては、これまでインバウンド観光を推進する中で外国人観光客へのおもてなしと申しますか、対応、応対と申しますか、そういったことに対する課題として、まずどうしても言葉の問題というのがございます。また、文化ですとか慣習ですか、そういった違いということもございましたので、以前にはこのような課題をなかなかすぐに解決するのは難しい中で外国人観光客への接客と申しますか、そういう対応のセミナーですとか、言葉が理解できなくても対応ができるような外国語対応の指さし会話表を作成するとか、そういった取組というのを行ってはおります。また、英語版ですとか中国語版、韓国語版のガイドブック等も作成して市内の観光スポットと申しますか、飲食店等も含めて配布をさせていただいております。

今、御提案のムスリムへの対応ということでございますけれども、今申し上げましたこうした言葉の問題に加えまして、これはそういう宗教と申しますか、そういった理解ということも必要ではないかというふうに思います。なかなかこうした課題をすぐ解決してお迎えする環境をつくるというのは、非常に困難性が高いのではないかというふうに思います。確かに今おっしゃられましたように、駅前商店街等空き店舗も増えている状況もございますので、何かそういうことに活用できれば、それは非常ににぎわいも出てきていいのではないかというふうには思いますけれども、今後、今御提案いただきましたことにつきましては、インバウンド観光を検討する中で調査研究してまいりたいというふうに考えております。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 是非、いろんな国から外国人観光客が来られると思いますので、その都度いろんなその対応をしていくというのは難しいとは思いますが、アジア圏というところで考えますと、このムスリムというところは対応可能なところではないかなというふうに思いますので、インバウンド政策というところでまた考えてしっかり施策として、その一つとして考えていただきたいというふうに思います。やはりその中でも、なるべく竹原市にというところでそういうふうの一つ考えておりました。

話はちょっとかわるのですが、次に春の桜まつりというところでちょっとお尋ねしたいと思います。

桜まつり、なくなるというか昨年までの形の桜まつりがなくなるということをお聞きしております。年間ではいろんなイベントで誘客促進をされているというふうに答弁があり

ましたし、実際1年間通していろんなイベントで誘客を促進しているということでありまして、私が聞いたのは桜の時期といたしますか、今のその桜まつりにかわるようなことは何かお考えでしょうかということでお尋ねさせていただいています。スタンプラリーみたいなのはどうかなというふうに投げかけたと思うのですが、そこら辺の答弁をいただきたいと思います。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 桜が咲く4月の時期のイベントについての御質問でございます。

例年4月の上旬に観光協会さんが中心になられた実行委員会の方で、桜まつりというのを開催をしてきたところでございます。桜まつりにつきましては、そうした春先のイベントとして長年住民の方ですとか観光客の方の楽しみということで定着をしております、にぎわいも創出してきたものというふうに思っております。

市としましても、四季を通じたイベントの開催によるにぎわいの創出には取り組んでいるというところでございますけれども、この春先のイベントとして定着をしている桜まつりにかわる、これにかわるイベントとして、現在民間事業者の方におきましてバンブー公園内で引き続き、これまでとはちょっと違う形にはなるということでございますけれども、開催をする、企画をされているということでございます。市としましても、そうしたイベントについては、これまで同様支援はしてまいりたいというふうに考えております。

現在、お聞きしております内容でございますけれども、4月7日土曜日、8日日曜日にバンブー公園でお花見を楽しもうというようなことで開催をすると。7日、8日の2日間は桜グルメというふうに題してグルメコーナーを今までどおり、これも例年どおりバンブー体育館の前で出店をされる。また、ステージイベントにつきましても、これは日曜日だけということでございますけれども、歌とかバンドとかライブを中心にされると。また、ちょっと数はまだわかりませんが、フリーマーケットのようなことも企画をされているということでございます。引き続き、市としましても、多くの方に来ていただけるようPR面でもしっかり御協力させていただきたいというふうに思っておりますし、また多くのお客さんが見えになれるということも想定されますので、当日のお手伝いも考えているところでございます。いずれにしましても、こうした桜にかわるイベントの開催によるにぎわいの創出には、引き続き取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 形は違うけども行いますと、桜まつりというのではないのですけども、そういうものをするという方向でありますけども、2日にわたってこういうイベントをするということもしっかりとPRしていかないといけない。今までは1日だけだったということですが、これを2日にかけてということなので、そういうPRもしっかりと支援をしていかないといけないのではないかと思います。

また、こういうイベントも実行委員会を立ち上げてということが多いと思うのですが、官民連携して知恵を出し合っていないといけないと思うのです。竹原市が引っ張っていく、どこどこが引っ張っていくというのではなく、皆さんで話し合うということが一番大切なことだと思うのです。その地元の人たちの考え方も参考にはなると思うので、しっかりとそういう連携をとっていただきたいと思うのですが、それについて何かありましたらお願いします。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） こうした今一例で桜まつりにかわるイベント、これ民間事業者さんの方で企画、運営されるということで、市も観光協会も側面的に支援をさせていただくということになるかと思います。こうしたイベントに限らず、何かそういうふうなにぎわいをつくるために行うということになりますと、いろんな方の御理解あるいは御協力がないとなかなか前に進んでいかないといいふうには思いますので、その辺は我々行政の方も、当然ですけども商工会議所ですとか観光協会ですとか、またそれぞれ地域の方ですとか、そういった方としっかり連携をしてにぎわいの創出に取り組んでまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 是非そのようににぎわいが創出できるように支援をしていただきながら行ってほしいと思います。

それでは、次に移ります。

美術館が町並み保存地区に移ることによってどのような影響があるのか、またその連携をどのようにとっていくのかというふうにお聞きしておりました。この美術館が移ることによって得るものはかなりあると思います。昨年、美術館の特別展で京都の伝統工芸展が展示されました。開会式の時の挨拶の中で、作家集団工芸京都、代表の村山明さんの言葉ですけどもその中で、竹原市が伝統工芸の発信地になることを期待するというふうな意味

合いのことを言われておりました。また、30年度の予算にも東京芸術大学の学生、大学院生の作品展示ということで、芸術イベントが計画されています。

現在、町並み保存地区の中に多くの空き家が点在しているというふうにお聞きしております。この空き家を活用して、この伝統工芸の工房として貸し出すことも考えられます。工房の体験や見学、それから作品の展示や即売などを行い、また何年に一回か美術館で、昨年やりました特別展のような感じで大がかりな展示をすることもできると思いますし、また美術館で特別展をされる時に関連した人とか作品なども、その町並みの施設で展示していくという形も考えられます。美術館と町並み保存地区の連携としては、いろんなことが考えられると思いますけども、これについてどのようにお考えでしょうか、お聞きいたします。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 町並み保存地区への美術館の移転と、また町並み保存地区での空き家の活用という御質問かと思えます。

まず、たけはら美術館を町並み保存地区へ移転することによる誘客への相乗効果と申しますか、そういう御質問でございますけども、現在のたけはら美術館については、市外からも観光客等が来訪されている状況というふうにお聞きしております。町並み保存地区には、市外県外から観光客が年間約33万人から4万人訪れられております。町並みへたけはら美術館が移転をするということになれば、集客施設ができるということになりますので、またそういったことによる町並みの魅了の向上ですとか、また観光客等の回遊性の向上、さらには滞在時間の延長による観光消費額の増というような好循環につながるように図ることができればというふうには思っております。ただ現在、美術館の移転計画につきましては、公共施設ゾーン整備事業の中で図書館ですとか児童館などの複数の施設に関する事業の一つということで検討をしているところでございまして、こうした個別の事業の具体的な整備内容につきましては、規模ですとかレイアウトですとか、またその移転の時期ですとか、また民間資金を活用した整備手法ですとか、様々なことをまだ検討段階ということが多い状況でございます。したがって、現段階で町並みへの移転の場所ですとか、移転の時期を含めて未確定ということもございまして、美術館の移転によるそういう誘客への相乗効果というのは非常にあるというふうには思うのですが、なかなか具体的な、まだ検討には至っていないというようなことで御理解をいただければというふうに思います。

また、町並みには確かに議員おっしゃられるように、町並み保存地区内の住民の高齢化等によりまして空き家が増えている状況でございます。現在、町並みの中ではこうした空き家ですとか古民家を改修してカフェなどの飲食店、また雑貨店、こういうことにリノベーションされたり、竹工芸振興協会さんが町並み竹工房で竹を活用した竹工芸品の製作、販売とか体験とか、そういったことを行っておられたり、また民間の事業者で陶芸の方の体験とか製作、販売とかというようなことも行っておられる方もいらっしゃいます。また、新たに町並みの中の古民家を活用しまして宿泊できる施設を今計画中というような事業者さんもいらっしゃいます。こういったいろいろ計画をされているという方もいらっしゃいますので、今御提言ございましたような工芸品を扱うようなお店といたしますか、そういった工房で工芸の体験ですとか見学ができるような、そういう施設ができれば町並みの中も空き家ということも解消されて、さらなる魅力向上とか誘客促進につながるのではないかとこのふうにも考えますので、今後民間の方も含めて関係者の方とそうしたことについても協議検討をしてみたいというふうに思っております。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 現在、竹工芸の方がそういうふうに行われているというのも存じておりますし、今から民間とのコラボというのですかね、そういうものでやっていきたいというふうにおっしゃられてますし、やっぱり活性化が一番だと思いますので、しっかりとそういうところを取組をされることを希望しております。

また、美術館に関してはまだ何も決まっていませんということなのですが、やはり移るからこうするというのではなく、その前から地元の人たちなり、いろんな各種団体なりと色々な話をしながらそれを進めていかないといけないと思うのです。ですから、そういう連携というものは密に持っていないといけないと思うのですけれども、そこら辺のところはどうお考えでしょうか。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 先ほどのイベントとも同様でございますけれども、町並み保存地区のたくさんの観光客の方がお見えになっておられるというような状況の中で、さらにその町並みの魅力を向上させ、あるいは誘客を促進することについては、いろいろな準備も含めた関係者の方との連携、協力というのが不可欠というふうに考えますので、そういったことにしっかりと努めてまいりたいと思います。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） 是非そういう施策というのですか、事業を展開して行ってほしいと思いますし、1回来てももう一度竹原に行ってみたいと、そういうふうに思えるように取り組んでいただきたいと思います。

そういうことに関連していくのですが、今の観光スポットというところで連携をとっていかないといけないのではないかとというふうに、1回目の質問では言っております。観光ルートという、ルート化ということで質問させていただいていると思いますけども、また今年、新規に忠海に郷土産業振興館というものもできて、体験型のスポットとしても観光に有効に利用できるのではないかと考えております。この観光ルート化に対するお考えをお聞かせいただきたいと思います。

副議長（高重洋介君） 企画振興部長。

企画振興部長（桶本哲也君） 観光ルートに関する御質問でございます。

現在、これは大久野島に象徴されるのですが、大久野島にお見えになられる観光客のほとんどの方は、市内の他の観光地をめぐらずに市外の次の目的地へ向かわれている方が多い状況というのはアンケート等でわかってまいりました。そうした中で周遊性の向上に向けて市としても取り組んでいきたいということで、これは国の地方創生の交付金を活用して、先ほども市長が御答弁を申し上げましたけども、周遊促進のための各種事業を行ってきたところではございます。ウサギをモチーフにしたランチとか、また周遊を促すようなPVですとかガイドブックですとか、そういったものをいろんな方面にPRをしてきたわけではございますが、ただやはりまだ十分な状況ではないというふうな認識でございます。

こうした現状を踏まえまして、今議員の方からも観光スポットを活用した観光ルートをつくってはどうかということでございますので、先ほども少し申し上げましたが大久野島、町並み保存地区以外にも瀬戸内海国立公園である黒滝山ですとか、御紹介のありました今建設しております郷土産業振興館ですとか、忠海港にはアヲハタジャムデッキという観光スポットもございます。こうした観光スポットをめぐるようなルートといたしますか、周遊できるようなそういったコースというのはモデルコースというような形で、市としても観光客の皆さんに御提案といたしますか、御紹介させていただいているというところではございますので、引き続きそういった観光スポットを活用した周遊性の向上といたしますか、できれば我々としては町並み保存地区の方にもしっかりと来ていただいてよさを認識をしていただきたいと思いますというふうに考えておりますので、今後観光プロモーション等を行う中で、

しっかりその辺についてもPRに努めてまいりたいと思っております。

副議長（高重洋介君） 7番井上美津子議員。

7番（井上美津子君） やはりPRが大事になってくるのではないかと思います。

観光スポットという部分では、かなり観光客の皆さんには知られてきているというふうには私は認識しておりますが、これは先ほど壇上でスポットの話をしましたけども、これは広島県のデータであり、全国のデータではありません。ですから、全国へPRして、全国から来ていただけるようにしていくべきではないかというふうに考えますので、この観光プロモーションというのはかなり必要性があり、また大変重要なことではないかと思っております。ですから、これから発信をしていくということだと思いますけども。

最後に、これからの観光誘客については全庁上げて取り組み合わないといけない、また地域や各種団体と連携をしていかないといけない、密に話し合っていないといけないということで、また先ほども言いましたけども、しっかりとプロモーションをしていただいて知名度を上げるということではないかと思っております。その取組が重要になってくると思っておりますので、最後に市長にこのプロモーションなり観光に対する思いをお聞きして、私の一般質問を終わりたいと思っております。

副議長（高重洋介君） 副市長。

副市長（細羽則生君） 観光をキーワードといたしまして竹原市の魅力を高めていくというようなことの御質問だと思います。

今おっしゃられましたように竹原市の魅力を高めていく、資源を活用していくという上では1つの課ではなくて組織横断的に取組を進めていかなくてはいけない。それらを進めていく上では、行政だけではできないこと、民間を巻き込んで協力を得ながらやっていかなければいけないこと、種々いろいろと取り組まないといけないものというものがあると思っております。そのためには、まず竹原市を知っていただくというような取組をしていかなければいけないというふうに考えておりますので、それらの部分につきましては、どういうところに課題があるのかというようなところもきっちり押さえながら、どういうところにターゲットを絞って展開をしていくかというところも考えながら取り組んでいきたいと。それらを取り組む上では観光部門だけではなくて、竹原市の魅力という部分につきましては関係課、様々なところが連携をしなければいけないということは認識をしておりますので、それが実になるようにチーム竹原というような形の中で取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、どうぞ御理解のほどよろしくお願いいたします。

副議長（高重洋介君） 以上をもって7番井上美津子議員の一般質問を終結いたします。

議事の都合により、午後1時まで休憩いたします。

午前10時51分 休憩

午後 0時55分 再開

〔議長交代〕

議長（道法知江君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き一般質問を行います。

質問順位4番、宮原忠行議員の登壇を許します。

10番（宮原忠行君） それでは、ただいまより一般質問をさせていただきたいと思えます。

昨年の市長選挙において、市長は新しいリーダーたることを強く訴えられ、圧倒的な有権者の支持を得て、今後4年間の市政のかじ取りを負託されました。支持された有権者は、豊富な行政経験に裏打ちされた市長のリーダーシップに大いに期待されていると思われまます。昨年は、地方自治を保障した憲法と地方自治法施行70年という記念すべき年でありました。その記念すべき年に就任された今榮市長が目指すべきリーダー像なりリーダーシップのあり方を市民に改めてお示しいただきたいと思えます。

2番目といたしまして、現代行政はかつての高度成長に基づく総中流社会から格差社会への構造的変化に伴い、市民ニーズも多様化、複雑化、対応困難性を深め、ますます複雑化、高度化、専門化し、それに対応する行政職員の資質と職務に対する意欲の向上、すなわちモチベーションをいかに高めていくかということが喫緊の課題となっています。

地方自治法施行以来の70年の歴史の中で先駆的な首長だけではなく、自治体消滅の危機感の中から血を吐くような思いで、あるいは心血を注いで首長を説得し、あるいは首長のパートナーとして住民を叱咤激励し、先頭に立って協働のまちづくりを継続的に実践し、地方自治の内実を創造してきた自治体職員の群像が存在しています。

例えば、柳川の掘割の埋め立てによる公共下水道計画を撤回させ、水の都を再生して今日につながる観光都市柳川を再生させた広松伝。滅びゆく妻籠の再生を町長に託され、住民を説得し国を説得して文化財保護法に伝統的建造物群保存地区を加えさせ、町並み保存による観光産業を創造し消滅集落を再生させた小林俊彦。公害都市水俣を市長との協働により環境都市に再生させた吉本哲郎。衰退する内子の町並み保存運動を住民との協働により展開し町並み保存から村並み保存へと拡大発展させ、地域経済を再生させた岡田文淑

等々の取組は、まさに地方自治の現場から国政の変更を迫るものでした。

市長は、第1回臨時会における所信表明において情報発信力の強化を訴え、市民の間に閉塞感のあることも率直に認められました。まず、隗より始めよであります。市長が期待する職員像を示して、竹原市が直面する諸課題に果敢に挑戦し、閉塞感を打ち破り、未来に希望の持てる竹原市行政を推進するに足る職員をどれだけ輩出することができるのかということが、市長のビジョンの実現なりリーダーシップを発揮する上で必須の条件であり、市民の期待するところでもあろうかと思えます。

市長の率直かつ忌憚のない答弁を求めたいと思います。

3番目であります。

吉名学園については、当初賛否両論が拮抗し、この議場においても吉名町出身議員の反対論が展開され、私は批判を承知の上で賛成論を展開し、町民の一部からは厳しい指弾を受けました。こうした様々な紆余曲折を経ながらも、吉名学園設立に向けた吉名町民の合意が形成され、新年度から発足する運びとなりました。対立を乗り越えて合意形成された保護者、住民、関係者の皆様方に、この場をお借りして敬意を表させていただきたいと思えます。

吉名学園の母体となった吉名中学校については、現在地の建設に至るまで町民世論を二分する激論が展開された経緯等があったこと、またプールにマムシが泳いでいたこと等から一時プールの使用が禁止されていたことから、今なお、吉名学園におけるマムシ対策を求める町民の切実な声があります。

私は、監査委員として昨年6月29日に実施した工事監査において、放課後児童クラブの建設工事の現場監督に、町民の間に校舎敷地の周辺がマムシの巣であると危惧する声があるのだが、どうなんだろうかと問いかけたところ、長い経験からして、放課後児童クラブ周辺は間違いなくマムシの巣になり、対策が必要であるとのお答えをいただきました。

そこで、あるPTA、OBの職員に確認したところ、自分の子どもが通っていた当時、そうした事実があったということでありました。

意見の対立を乗り越えて、小中一貫校としての吉名学園のスタートに当たっては、マムシ対策等、児童生徒のみならず、保護者、地域住民全ての安全・安心が担保されなければなりません。吉名学園の安全対策をどのようにとられるのか、教育長の決意のほどをお示しいただきたいと思えます。

最後に、昨年施行された市長選挙においていわゆる怪文書が流布され、はしなくも竹原

市における人権状況が露呈することとなりました。

差出人不明の怪文書は私のところにも郵送されましたが、直後から相当数の市民から怪文書が送られてきたのだがどうしたものかという問い合わせ等の電話がかかってきました。そうした問い合わせに対して私は、あなたの良心が問われている、今回の市長選挙は市民の良心が問われる選挙である、あなたの良心に問うて恥じない投票行動をされるべきであるというアドバイスをさせていただきました。

竹原市においては、これまでも差出人不明の人間の尊厳を侵犯する、いわゆる怪文書といわれるものが議員等に送付されたり、家庭に投函されるということが繰り返され、人間の名誉、尊厳を推進してきた竹原市行政にとって、まことに深刻な問題が提起されてきたところであります。

今日、インターネットによる匿名性に基づいた名誉毀損、人権侵害は極めて深刻な状況にあります。加えて、竹原市においては差出人不明の怪文書が郵送、投函され、特定の個人の名誉、尊厳が侵害されています。こうした匿名性に基づく個人の名誉、人間の尊厳を侵害する事態を市長としてどのように認識され、対処されようとしているのか、決意のほどをお示し願いたいと思います。

以上をもって壇上での一般質問を終わらせていただきます。

議長（道法知江君） 順次答弁願います。

市長。

市長（今榮敏彦君） 宮原議員の質問にお答えをいたします。3点目の御質問につきましては、教育長がお答えをいたします。

まず、1点目の御質問についてであります。目指すリーダー像につきましては、本市のかじ取り役を担い、市民の皆様の負託に応えながらこれからの4年間の市政運営を行うに当たり、次の2点を意識して様々なことに取り組んでまいりたいと考えております。

1点目は、目まぐるしく変化する社会状況や多様な市民ニーズを的確に捉えるための柔軟な発想を持つこととあります。

2点目は、本市が直面する課題に対して解決すべきことを明確にし、これまでの取組をさらに深化させるとともに、新たな取組に対しては前例にとらわれず果敢に挑戦することとあります。

これらについて私自身が先頭に立って行動し、我々行政が市民や企業の皆様との信頼、協力関係をさらに深め、一丸となってチーム竹原市として取り組むべきことを着実に実行

し、その成果、効果を広く還元させることで、元気な竹原市を実現してまいりたいと考えております。

次に、2点目の御質問についてであります。急速な少子高齢化、人口減少、個人の価値観の多様化など時代の変化に柔軟に対応するためには、今まで以上に職員自らがまちづくりの担い手である自覚を持ち、自発的に考え行動できる人材が必要であると考えております。

こうしたことから、行政事務における専門的知識に加えて、市民の皆様とともに地域の課題を考え、行動し、解決することができる能力を備えた職員の育成に取り組み、職員のやる気の喚起と組織力の向上に一層取り組んでまいりたいと考えております。

次に、4点目の御質問についてであります。本市におきましては、これまでもインターネットの掲示板へ差別的な書き込みが行われていることや、今回の市長選挙期間中の匿名による個人の名誉、人間の尊厳を侵害する事態は、基本的人権を侵害する卑劣な行為であるとともに、根強く存在する差別意識が表面化した差別事象として厳しく受けとめているところであります。

竹原市人権教育啓発基本計画に基づき、市民一人一人が人権尊重の意識を高め、お互いが尊重し合い、差別のない明るく住みよいまちづくりの実現に向けた取組を進める本市といたしましては、今後も引き続き関係機関と連携を図りながら、人権教育及び人権啓発の推進に努め、あらゆる差別の解消に向けた取組を進めてまいります。

以上、御答弁といたします。

議長（道法知江君） 教育長。

教育長（竹下昌憲君） 宮原議員の質問にお答えいたします。

3点目の御質問についてであります。学校は児童生徒の健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を行う場であり、安心・安全な環境が確保される必要があることから、吉名学園の開校に際しましても、児童生徒の安全について十分な対策や指導を行うこととしております。

まず、施設整備に当たっては放課後児童クラブ施設裏の水路を改修したほか、プール施設の周囲を含む学校敷地周辺を一斉に草刈りし、不要な樹木の伐採を行うなど環境の改善、向上を図っており、今後も継続的に取り組んでまいります。

また、児童生徒への安全指導につきましても、次の3点について学校に指導を行ってまいります。

1点目は、マムシに遭遇した時の対処法についての児童生徒への指導であります。これによりマムシの外見等について知識を身につけさせるとともに、もしマムシを見つけても騒がずに遠のき、大人に知らせるなど、危険な生き物への対処法について指導を徹底いたします。

2点目は、危険箇所の周知であります。児童生徒だけでなく保護者や地域の方にも、マムシがいそうな場所については不用意に近づかないよう継続的に周知を図ってまいります。

3点目は、安全管理体制の確立であります。事前の安全確認を徹底するとともに、危機発生時においても組織的に対応するよう取り組んでまいります。開校後におきましては、小学生も学校生活をともにすることから、今後とも児童生徒が安心・安全に学校生活を送り、充実した教育活動を展開できるよう取り組んでまいります。

以上、答弁を終わります。

議長（道法知江君） 10番宮原忠行議員。

10番（宮原忠行君） それでは、再質問をさせていただきたいと思っております。

非常に私は、竹原市が課題を山積している、特に公共施設の再配置とか、また公共施設の総合管理計画等々において見られた膨大な財政需要といいますか資金需要、こうした待っておれない課題に対して、私自身ならば立ちすくむのではなかろうかなど、こういうふうな思いをしております。そうした意味では非常に、ある意味今後20年、30年あるいは50年かもわかりませんが、竹原市の近未来の市民に対しても重要な職責を担うことになる新市長におかれましては、その責任の重さをひしひしと感じられ、悩むことも多いかと思っておりますけれども、是非とも頑張ってください。

市長と私とのそもそもの因縁を申し上げますと、たしか56、7年だったですかね、市長が臨時職員として税務課に配属され、ちょうどその当時税務の電算化、これがあった当時、おそらく土曜日か日曜日だったと思うのですが、出てこられて当時の係長と2人で一生懸命仕事をされていたことが、昨日のことのよう思い出されます。そうした意味におきましても、その当時と今日におけるIT化、まさに時代の流れ、この重みも感じますし、同時に私は昭和55年に職員に採用されたわけでありましてけれども、その年をピークにして人口減少へ向かっていくと。ある意味竹原市におけるピークの時を経験した一人なわけです。同期ももう既にほとんどが退職をされましたけれども、その当時、同期で市役所に奉職した職員の一人が、宮原さんあのころはよかったのよと、あのころが最高だったと

というような言い方をされて、私はそうかなと思っていたわけです。ところが、こうして今日における高齢社会、そして人口減少というこの現実を見た時に、私は改めて、自分自身も含めて一体何をしてきたのかなというじくじたる思い、反省の気持ちも湧き起こってきます。おそらく市長におかれては、私以上に市の職員としては一生懸命日々生起する諸課題に一生懸命に取り組んでこられたと思うのです。取り組んでこられたと思いますけれども、しかし現実とその結果として今市民が閉塞感を持たざるを得ない状況にあるということは、私は、これはどういうふうに理解をすればいいのだろうかかと、このように考えるわけです。

地方再生とは何かという本の中で、本間さんという学者の方がこのようにいっておられます。ある中山間地域の町の首長が私に語ったことがある。行政上の施策をやればやるほど人口が減少する。自治体行政として一生懸命仕事をしてきたが、結果として得られたのは人口の減少であり、地域の衰退だったというのである。そして最後に、妙な言い方だが、多くの自治体行政は一生懸命にやって、その結果地域を衰退させている。少なくとも衰退の流れをとめる決定的な施策を打ち出せないでいるとしか言いようがないと、このように言われてるわけです。私を含めて職員時代も含めて、一生懸命に仕事をしてきた自負もうぬぼれもありますけども、やはり結果として今の今日における事態というのは、果たして何だったのだろうかかと。

宮崎県の綾町の郷田實という町長さん、もうお亡くなりになられましたけれども、彼は、町長にとって必要なのは、町民一人一人のニーズをつかむことではなくて、時代の流れと連動をつかんで、そして近未来の子どもたちにその遺産を引き継がせていくことだと、こういうふうにおっしゃっておられます。私もそうではないかと思うのです。

市長、答弁としてこういう答弁なのだろうと思いますし、私もいろいろ、全国の事例がいろいろありますけれども、それを一々御紹介をするのもどうかと思います。是非とも柔軟な発想を持っていただいて、前例にとらわれずに、まさに全国あまたに首長が極めて困難な状況の中から道を切り開かれてやってきた、そうした事例は数多くあります。そうした事例も是非とも自ら調べていただいて、是非ともそういうところの事例をそのまま受け継ぐというわけにもいかないものでありましようけども、学ぶべき事例は全国にあまたありますので、是非ともしっかりと学んでいただいて、今の少なくとも一生懸命やってきて、今日なお市民の間に一部とはいえ、閉塞感があるというこの認識が打破できるような状況というのを、是非ともつくっていただきたいと思います。

そこで、ここで市長以外に答弁を求めることはできませんから、まだまだ例はありますけれども、そうした全国の事例に学びながら竹原市に適応できる、そうした施策を打ち出す努力について、市長の決意のほどがあればお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

議長（道法知江君） 市長。

市長（今榮敏彦君） 私も31年間ほど行政経験を積んでまいりまして、様々な場面でいろんな課題を踏まえて、いろんな先進自治体の事例等を研究をしてきたことでもあります。そうした中でいろんな政策というものも推進をしてきた部分もございます。市民の抱く閉塞感というのが、原因がどこにあるのかというのは様々であるというふうに思います。しかしながら、その様々な抱いた御意見とかというものはお聞きをした上で、行政としてはかみ砕き、それをいかに表現をしていくかというのが、我々行政側の使命、役目であるというふうに認識しております。その上で議員御提言、御示唆のありました様々な先進事例というものは、確かにすばらしい努力の結果のたまものもございます。それを議員もおっしゃいますように、そのまま竹原市につなげるということではおそらくないと思いますが、いかに竹原市のこの地域の現状においてその事例が生かすことができるかということは様々な場面でそれぞれの職員、私も勉強し、さらなる事業の推進について努めてまいりたいというふうには思っております。

議長（道法知江君） 10番宮原忠行議員。

10番（宮原忠行君） 是非とも、市長非常に勉強家であります。行政を専門に扱う図書、第一法規とか様々ありますけれども、そこの営業の方から、職員時代からよく本を購入して一生懸命勉強されておられると。その当時は、今榮さんと宮原さんですかね、本をしっかりと買っていただいて勉強していただいているのはと、こういう声も聞いたことがあります。是非ともしっかりと勉強していただいて、間違えのないかじ取りをしていただきたいと思います。

次に、市長が期待する職員像とはですけれども、かつて、例がいいかどうかわかりませんが、市長の方も例に挙げておられます日本の高度経済成長を牽引した池田勇人元総理を竹原市における先人の一人として上げておられます。あの当時、戦後は終わったという形の中で日本の経済構造を重化学工業へと転換をしていく過程の中で、高度経済成長を実現するために期待される国民像として池田勇人さんは出されたわけです。

私は、今ある意味で言えば確かに全国先進事例はありますけれども、市長も答弁いただ

いたように、なかなか竹原市においてすぐに適用できるようなものというのは難しいのかなという思いもあります。同時に、その先進事例があってもそれを消化し、吸収をして応用できる職員が果たしてどれだけいるのだろうかということが、私は問題になってくると思うのです。確かに、昔に比べると私は職員の知識とかそうした能力というのは非常に高くなったと、このように思うわけです。ところが、果たしてどこに問題があるのか、そしてその問題はどのように処理すればいいのかという問題の発見能力と、また解決能力については、私はいささか疑問なしとしないのです。世代間の問題がありますから、一概には言えないと思うのですけれども、かつて市役所へ奉職されたOBの方々が市役所へ行って、若い職員は確かに頭がいいと。頭がいいことは認めるのだが、どうもそうした地域であるとか、地域で頑張っておられる人々への共感力、シンパシーがないのではないのかねと、こういうふうな厳しい御指摘もしばしば受けるところであります。私は、そうした意味において職員の感性を豊かにすることもおそらく大きな、市長が職員に期待する一つの要素としては、豊かな感性を涵養するということが私は重要なことになってくるのではないかと思うのです。

そこで、再々市長に言うわけにはいきませんので、総務部長、今の私の指摘に対して感想があればお答え願いたいと思います。

議長（道法知江君） 総務部長。

総務部長（平田康宏君） 職員の育成という観点の御質問だと思います。

確かに、豊かな感性は必要であろうかと思えます。

市の方といたしましては、目指す職員像、人材育成基本方針等で定めております。それによりまして、地域とのつながり、結びつきというのは大変重要でございまして、我々職員が地域に出向きまして直接住民、市民の方とお話しする中で、世代間のお話もございましたが、そういった世代間の垣根を越えましてお話をした上で、それぞれの取組につなげていくというのは大変重要でございまして、その点は踏まえてまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長（道法知江君） 10番宮原忠行議員。

10番（宮原忠行君） 今、昨日の一般質問でも問題になりました立地適正化計画、まちづくり計画といいますか、これに基づいて都市整備課の職員が各地域に出向いて行って説明会といいますか、御協力をお願いをしているような状況、した結果ですね。私、北部で

ある自治会長さんからこういうお話を聞きました。宮原さん、この前説明会があったのだけど、東野から奥の方で何人しか来てなかったのだけどという話の中で、宮原さん、例えばもう自分たちでできることは自分でしなきゃならない時代になったんかね。例えば、道路に穴があいたとすれば、やっぱり私ら地域の間人が出てしないとイケないのかねというようにことをおっしゃっておられました。自分で、あるいは自分たちでできることは自分でやる。これ今まで全国でも、例えば長野県の栄村なんかもそうです。そして、長野県の下條村、ここなんかも村長は行政に頼るな、住民でできることは住民でやれと、自分たちでできることは自分でやれと。こういうふうなことを村民の皆さんに訴えられて、そして財源を捻出され、移住者用の戸建て住宅とかマンションを建てられて人口抑制に歯どめをかけられた先進事例もあります。

私は、おそらく市長にしても職員にしてもできることは、住民に対してしないとイケないことはやらないとイケないし、やっぱりできないことはできないということも、私は勇気を持って言う時代にきているのではなかろうかと思うのです。例えば、今西日本でいうとテレビとかあるいは新聞等、島おこしということで最も露出度が高いというか、注目をあびているところが島根県の海士町です。海士町の山内道雄町長は、ないものはないと、こう言うのです。ないものはないのよということは裏返して言えば、できないものはできないということでしょう。しかし、私も、例えば監査委員会が開かれた時に話しすることがあるのですけれども、そういう例を話ししますと、例えば代表監査委員さんなんかでもびっくりしますよ。そんなこと言ったら、竹原では選挙にすぐ滑るでしょという話です。全国、事例そうなんでしょう。

しかし、先ほども申し上げましたニーズではなく時代の流れ、トレンドをつかんで、それに布石を打っていくとするならば、限られた財源、もちろん職員という人的資源もあります。その財源、人的資源というものをどういうふうにも有効に施策に生かして、少なくとも市長が認識しておられるような閉塞感を打破するとするならば、やはりそこは住民の皆さんでお願いできませんかね、ここはできないところは我々がやりますという、そうしたことも勇気を持って言える市長であり、また職員にならなければ、これからなかなかニーズに追われていく場当たりの、そうした対応だけでは、私は今の人的資源、特に人的資源等々からいって相当難しいなと。そして結果として、一生懸命仕事をしたのだけれども昨日もあったように、ああ、4割の人口減少かと、あるいはそうした推計をはるかに超えた人口減少社会に竹原なってしまいましたねと、こういう結果に私はなるのではないかと思う

のです。そうした意味では、しっかりと住民の皆さんの声に耳を傾けた上で、その上で行政にできること、できないこともこれからはっきりとしていかないといけないのではないかと思うのです。

そして、話は飛びますけれども、私は行政視察で熊本県の水俣へ行きましたけれども、この議場においても一般質問をさせていただいたことがありますけれども、あの水俣の公害問題が燃え盛った時、水俣市は内乱状態にあると言われていたわけですから。そして、その内乱状態にあると言われた水俣で、吉本哲郎さんという方が地をはいずるような思いをしながら、今日の環境再生都市水俣をつくり上げられました。その時に、ちょうどまだまだ吉本哲郎さんが模索を積み重ねている時に市長になられたのが吉井正澄さんです。そして、吉井正澄さんはこういうふうに言っています。水俣病の解決には、多くの市の職員に助けられた。職員に求める前に、職員から信頼される市長でなければならぬと常々思っていた。吉本君を環境対策課長に任じたら、与党議員から水俣病患者と親しい反体制の危険人物と言われた。確かに公務員の規範からはみ出た公務員らしからぬ公務員だが、特異な目線と独創力と人脈を持つ数少ない人材である。職員の中には視点の違う異端児的な存在も必要であると説明した。つまりは、ペーパー試験の結果よりも、欲しいのは企画力や創造性であるということだ。期待される職員は、庁舎内では足を引っ張られがちであるが、私は庁舎内では吉本君を助けない。職員間のバランスを考えなければならないからだ。しかし、外からの批判に対しては断固として擁護する。ただし、擁護するに値する覚悟を持ってやっているかどうかだと。そして、吉本君は変わった視点を持っている。変革の時期にあった水俣には、画一的な役所の視点ではなく、草の根の視点が絶対必要だった。彼はそういう人材であった。自治体職員には、価値観が多様化した現代において違う視点を持つ市民の声に耳を傾け、物事を立体的に見る姿勢が求められる。そして、現場、現実、現物を知り尽くし、その上で市民や国に政策を提言してほしいと、このように語っておられます。

私は、例えば愛媛県の内子町でありますけれども、あそこの岡田文淑さんなんかも、多数意見に従ったのでは内子の再生はなかったと、こういうふうに言っています。むしろ少数意見、ひょっとすると一人でもあるかもわからない。しかし、それでもなおかつ現場を知り、そして全国のいろんな知見を持ち、状況を突破する職員が私はおそらく求められる一つの職員像ではないかと思うわけです。是非とも、そうした意味においては異論にはなかなか組織であるというものはそれを受け入れがたいというか、不寛容な面がしばしば見

受けられますけれども、是非とも市長もそうした柔軟性に富んだ、そしてまた前例にとらわれないと、こういう政策を打ち出すとするならば、また議会が終わりますれば人事の季節と、こういうことになるわけでありましてけれども、是非ともそうした点についても総務部長において御配慮いただきたいと思いますが、この点について答弁できる範囲で構いませんので、答弁をお願いしたいと思います。

議長（道法知江君） ちょっと待ってください。質問者に確認をさせていただきたいと思えます。

議事進行をつかさどるのは議長であると思っております。答弁者を求めるに当たりましては、質問者が答弁者を指名するのではなく、議長において許可を得た上で指名させていただきたいと思えますので、何卒よろしく願いいたします。

（10番宮原忠行君「そうしたらやめようや。やめた、もう」と呼ぶ）

答弁者の方で……

（10番宮原忠行君「議長が答弁者というて指定して、どうということになるんや。やめようや。やめた」と呼ぶ）

許可を得て答弁を……

（10番宮原忠行君「以上をもって終わります」と呼ぶ）

以上をもって10番宮原忠行議員の一般質問を終結いたします。

これをもって一般質問を終結いたします。

この際、議長から報告いたします。

予算特別委員会委員長及び副委員長の互選が行われ、その結果の報告がありましたので、報告いたします。

予算特別委員会委員長に高重洋介委員、副委員長に今田佳男委員が当選されております。

それでは、高重洋介委員長の発言を求めます。

予算特別委員会委員長（高重洋介君） 平成30年度予算特別委員会委員長を拝命いたしました高重です。

平成30年度の当初予算は、本市の地域資源を活かすまちづくりの推進として「人を活かす」、「地域を活かす」、「歴史・文化を活かす」、3つの活かすをテーマに122億3,586万5,000円の予算となっております。審議に当たりましては、円滑かつ効

率的な議事運営に心がけ、市民の皆様の生活安定のため委員の皆様を取りまとめ役として任を全うする決意でございます。委員各位の御協力を賜りますようよろしくお願いをいたします。

議長（道法知江君） 続いて、今田佳男副委員長の発言を求めます。

予算特別委員会副委員長（今田佳男君） ただいま紹介いただきました今田佳男でございます。

このたび予算特別委員会副委員長を務めさせていただきます。高重委員長を支えて、このたびの予算特別委員会が充実したものになるように努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

議長（道法知江君） 以上で本日の日程は終了いたしました。

お諮りいたします。

予算特別委員会審査などのため、ただいまから3月15日まで休会にいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（道法知江君） 御異議なしと認めます。よって、ただいまから3月15日まで休会とすることに決しました。

議事の都合により、3月5日から3月8日は10時から委員会室にておいて予算特別委員会の付託案件の詳細審査を、3月13、14日は議場において予算特別委員会の全体審査をそれぞれお願いし、3月16日は9時から議会運営委員会の開催、10時から本会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。

午後1時45分 散会